

<日本の谚语> - 亲近中也不忘礼仪 -

这个谚语的意思是「很好的关系也必须遵守礼仪」。和某人认识后，我想从开始交往后就立刻会有那种对对方产生顾忌的心理。

人们往往一开始会顾忌跟对方说自己个人的事情、拜托对方办事之类的吧。有时候会考虑对方的立场，注意措辞也不会讲的太多。

但是渐渐和对方关系亲密起来，也能够把自己的想法直接的和对方说。然后，对方也会向自己敞开心扉、谈一些关于自己的事情，这样就会加深关于对方的了解。这样即使相互间有一些小摩擦的话，也会想对方应该会原谅我吧，产生一种安心感。

像这样和他人建立愉悦的人际关系是一件很幸福的事情。但是，另一方面、如果安心感过度，做出一些不太注意对方心情和立场的行为的话，有可能这就是和对方关系恶化的原因。

这个谚语要说的就是「为了避免出现那样的情况，怎么样的亲密也不要忘记礼仪，要注意把握一定的度」。

但话又说回来，一味的拘泥于礼仪也会变得太拘束，把握住平衡不是一件简单的事情，让我们多留心、经常站在对方的立场考虑问题吧。

<日本のことわざ> - 親しき中にも礼儀あり -

「仲の良い間柄でも礼儀は守らなければならない」という意味のことわざです。

誰かと知り合いになっても、交際が始まってすぐは相手に対して遠慮する気持ちが働くものではないかと思いません。

最初は自分の個人的なことを相手に話したり、相手に何かを頼んだりすることも抵抗があるでしょう。相手の立場を考えて言葉遣いに気をつけるあまり喋りにくいという場合もあります。

しかしだんだんその相手と親密になり打ち解けると、自分の気持ちを率直に話したりできるようになります。また相手も自分に心を開いて自身のことを話してくれるようになると、その人への理解も深まります。そしてお互いに少々のことなら相手は自分を許してくれるだろうという安心感も生まれることでしょう。

そのような居心地の良い関係を他人と築けることはとても幸せなことですが、一方で、安心感の度が過ぎ、うっかり相手の気持ちや立場に対する気遣いに欠けるふるまいをしてしまって、それが原因で相手との関係が悪くなってしまふことがあります。

このことわざは「そうならないように、どれほど親しい相手であっても礼儀を忘れず、節度を守りましょう」と諭しています。

とはいえ礼儀ばかり気にすると堅苦しくなってしまうし、そのバランスは難しいものですが、いつも相手の立場に立って物事を考えられるように心がけたいものです。